



















































上市町指定文化財

大岩山日石寺山門

指 定 年 月 日 昭和五七年一〇月二八日

所 在 地 上市町大岩一六三

所有者及び管理団体 大岩山日石寺

規 模 六・三六m×三・六三m、高さ約四m

概 要

桁行三間、梁間二間の入母屋造、檼瓦葺（元はこけら葺）の楼門である。柱がすべて角柱で、また二重目の乗せ方が民家や城門と同じ「せがい造（出桁造）」であるなど、地方色豊かな建物である。左右の格子窓の中は仁王の間となっており、二体の仁王像が安置されている。

日石寺は真言密宗の大本山で、神龜二年七月（七二五年）、行基が北陸伝導のおりに一大巨巖を発見し、不動明王ほか四体の尊像を刻んだのが開創であると伝えられている。

室町時代には二一の末社・七堂伽藍・六〇の寺々が建ち並び、地方信仰の中心として大いに隆盛を極めたという。

天正年間には上杉勢の兵火に合い緒堂・緒記録などごとごとく焼失流散してしまったものの、慶長年間に中興開山の祖、弘寒上人によって再興されて以来かつての隆盛を取り戻し、現在の日石寺へと至っている。

この山門は元禄年間（江戸中期）に再建されたもので、地方信仰のあり方を雄弁に物語る建造物として、往時をしのばせている。

平成十六年六月 上市町教育委員会











